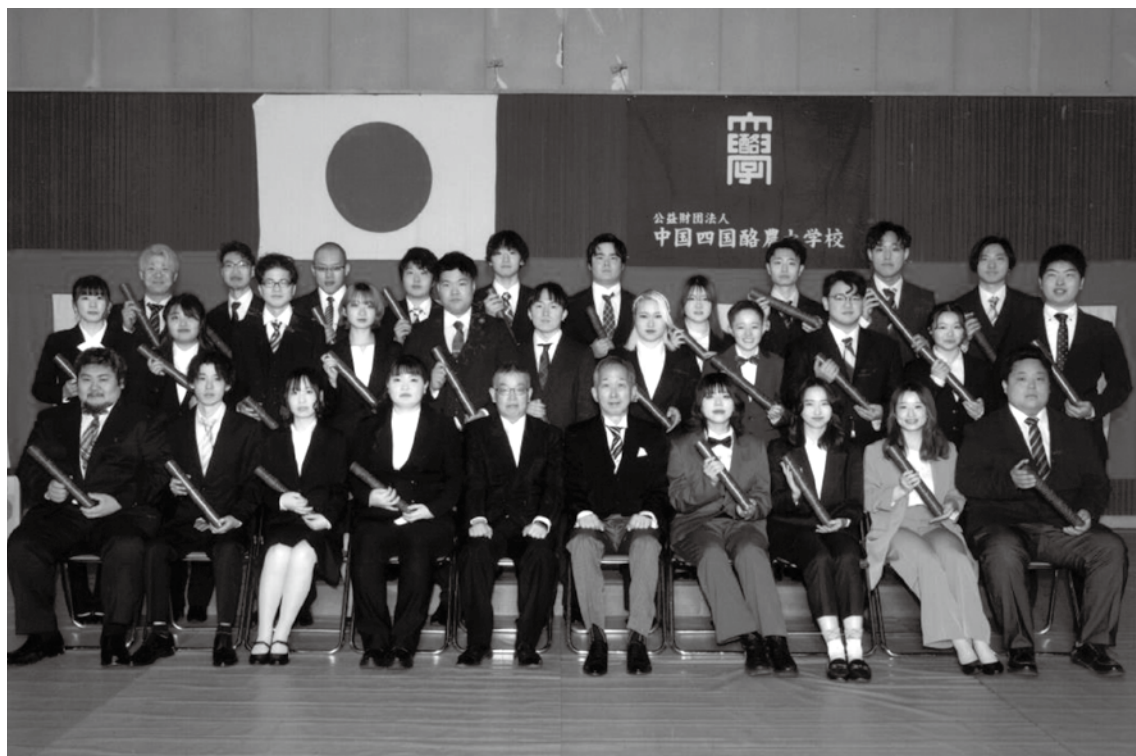


岡山畜産便り

2023 4

令和5年4月27日発行 第七十四巻第三号



令和4年度 公益財団法人中国四国酪農大学校第57期生卒業記念 令和5年3月16日

も く じ

〔酪大だより〕

第57期生が卒業しました

(公財)中国四国酪農大学校 1

〔トピック〕

令和4年度和牛シンポジウム開催

(一社)岡山県畜産協会 2

〔県民局だより〕

小学校で酪農の出前授業を行いました！

備中県民局畜産第一班 5

〔家保のページ〕

牛のクロストリジウム感染症について

岡山家畜保健衛生所 7

〔技術のページ〕

畜産研究所の主な試験研究課題について

畜産研究所 企画開発グループ 9

〔共済だより〕

家畜診療日誌

美作家畜診療所 宮本 翔也 11

〔人事関係〕

岡山県畜産関係者名簿 12

岡山県農業共済組合 14

全農岡山県本部畜産部 15

おかやま酪農協同組合 16

一般社団法人岡山県畜産協会 17

岡山県畜産関係各種協議会 18

動物用 カルシウム剤 ダービー

ダービーは貝化石の
微粉末であり貝化石には
カルシウムや各種ミネラルが
豊富に含まれています。
カルシウムの供給源として
搾乳牛や子牛にも
最適です。



JYUCHIKU Co., Ltd. 株式会社ジュウチク

岡山市北区今保 99 番地 3

Tel.086-259-1230 Fax.086-259-1231

Email : jyuchiku@festa.ocn.ne.jp

健康な仔牛づくりへの
一歩目はこれから！



弊社では、四十年余り培ってきた醗酵技術を用
いることで、乳酸菌やその他の菌類を使用した良
質な醗酵飼料を、肉用・乳用を問わず、全ての
ステージの牛に対して提供しております。

また、弊社ではこれらの技術を利用したオーダー
品の設計や生産、飼料米の粉碎などの原料の
加工も承っております。

原料を持込での加工依頼や、御要望の数量の
多寡を問わず、まずはお気軽に御相談下さい。

醗酵飼料のパイオニア

フタバ飼料株式会社

〒709-0841 岡山県岡山市東区瀬戸町万富1057-1

TEL 086-953-0832 FAX 086-953-1870

E-mail : futabashiryo.co.jp

〔酪大だより〕

第57期生が卒業しました

公益財団法人 中国四国酪農高等学校

本校は、『経営感覚と確かな技術を持った人材の育成』『酪農を通じて地域に貢献できる人材の育成』『社会人としての基礎力を備えた人材の育成』という3つの教育理念のもと、卒業後即戦力として地域社会に貢献できる実践的な知識と技術を身につけた人材育成を行ってきており、この春、第57期生29名（男子17名、女子12名）が酪農高等学校を卒業しました。今年も卒業生、在校生、教職員に加え保護者の方にも参列していただき卒業生を見送ることができました。就農・就職状況は、酪農後継者が4名、雇用就農が20名（うち酪農場12名、肉用牛農場8名）、酪農ヘルパーが3名、削蹄師が1名、進学が1名となっています。このうち3名が岡山県内で就業しており、岡山県の畜産振興に繋がることを期待しています。



第57期生一同（入学式写真）

57期生は個性的な学生が多く元気で明るい学年でした。新型コロナウイルスの影響により思うように視察に行けなかったり農大との交流会が中止になったりと今までできていたことがなかなかできず我慢することも多かったと思いますが、それを上回

るほどの元気さで学生生活を楽しんでいたようでした。男女問わず仲が良く盛り上がりすぎて少々羽目を外してしまうこともありましたが、新型コロナウイルスのクラスターが校内で発生し牧場作業に支障が出そうなとき率先して協力を申し出てくれるなど頼もしい一面もありました。また、57期生は30名入学し途中1名が体調不良で退学を余儀なくされてしまいましたが、その後は退学者もおらず29名が無事卒業を迎えることができました。これは困っている人がいれば積極的に助けに行くという相互扶助の精神が備わっている学年だったからこそだと思います。今後もその精神を忘れず周りの人と助け合いながら社会に貢献していったいです。



大山乳業視察にて

2年間の学生生活で確かな友情を育み和気あいあいと日々を過ごしていた57期生ですが、4月からは新しい土地で老若男女様々な人と関わりあいながら仕事に励む必要があります。慣れない環境で不安や戸惑いもあることでしょうが同じ志を持った仲間たちと励ましあいながら、かつてない苦境に立たされている畜産業界を生き抜いて欲しいと願っています。

〔トピック〕

令和4年度和牛シンポジウム開催

一般社団法人 岡山県畜産協会

令和5年3月20日（月）真庭市落合総合センター多目的室にて、和牛シンポジウムを開催しました。本シンポジウムは（一社）岡山県畜産協会をはじめ全農等県下畜産6団体で構成する実行委員会の主催及び岡山県、真庭市の後援を得て、20回目を迎えました。ここ数年はコロナウイルス感染症の拡大により、リモートを中心に開催してきましたが、本年度は4年ぶりとなる対面でのシンポジウム開催となりました。検温・消毒の実施、換気に努め、密にならないよう対策をとりながらの開催となり、今回の参加者は和牛繁殖農家、JA等関係団体、行政で98名となりました。



開会の挨拶をする柴田会長

不安定な世界情勢の中、畜産分野においても、燃料、肥料、飼料など生産資材の価格高騰が大きな影響を与えている状況の中、「畜産危機を乗り越えるために～出来ることからやってみよう～」をテーマに2つの講演と昨年10月に鹿児島県で開かれた「第12回全国和牛能力共進会」での岡山県の成果について報告が行われました。その後、パネルディスカッションを行いましたので、その内容をご紹介します。

させていただきます。

1. 鳥取県生産者連絡協議会の取り組み

鳥取県生産者連絡協議会 木嶋泰洋会長より「より良い子牛をつくるために～鳥取県生産者連絡協議会の取り組み～」と題し講演をしていただきました。



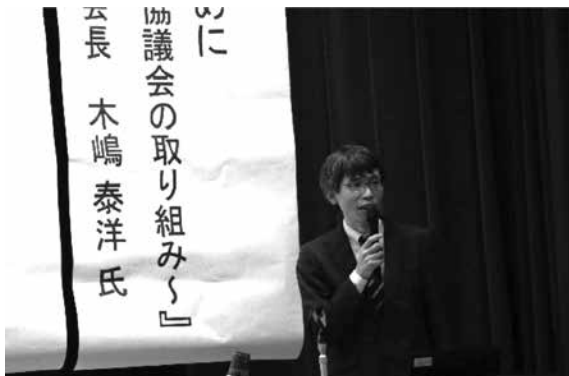
鳥取県生産者連絡協議会 木嶋会長

木嶋会長から、「より良い子牛を作るためには地域が一体となって取り組むことが必要で、それが市場価格に反映される。そのためには生産者が主体となった連絡協議会が必要であり、優秀な血統だけに頼らない購買者が安心して買うことが出来るような仕組みを生産者自身で作った。」と述べられました。

2. 国産飼料の活用方法

広島県立総合技術研究所畜産技術センター福馬敬紘副部長より、昨今の飼料高騰を受け、「国産飼料の活用方法～飼料用イネの活用～」と題し、イネWCS・飼料用米の成分や給与方法等についてご講演いただきました。この講演内容に関して、後に述べるパネルディスカッションの中で、岡山県で和牛繁殖経営を行っている勝英和牛改良部会 小林勝彦部会長

より飼料イネのカビ予防について質問が挙げられました。福馬副部長からは、「畜草2号などの乳酸菌が有効。保存状態にもよるがサイレージ開封後、5日間から7日間はカビの発生は抑えられる。」と説明がありました。また、会場からは、イネWCSを使用したことによるコストメリットについて質問が挙げられました。後日詳細な回答をいただきましたので、次のとおりご紹介させていただきます。



広島県立総合技術研究所畜産技術センター

福馬副部長

『購入乾草の代替利用前提でWCS利用によるコストメリットを考えた場合、維持期の雌牛より授乳期の雌牛や離乳後の子牛への利用が効果的になると考えられます。』

維持期の雌牛にWCSを利用する場合、エネルギーを薄めるための飼料（イナワラ）とタンパク補給の飼料（大豆かす等）が必要になりますが、それらの価格も高騰しているため、WCSによるコストメリットは小さくなります。

一方でエネルギー要求量が高まる授乳期や成長段階の子牛の場合、エネルギーを薄める必要はなく、タンパク補給のみ（量も多くて数百gほど）必要になりますので、得られるコストメリットは大きくなると考えられます。』との回答をいただきました。

最後に、岡山県農林水産部畜産課 金谷健史主幹による「第12回全国和牛能力共進会」の報告の後、パネルディスカッ

ションを行いました。

3. パネルディスカッション

「生産コスト低減を目指して」をテーマとし、ご講演いただいた2名の講師に加え、前述の小林部会長の他、行政関係・獣医師等関係団体の各分野の専門の方をパネラーとしてお招きしました。

最初に木嶋会長の講演の中にもあげられた「鳥取県生産者連絡協議会」の取り組みについて意見交換を行いました。

「鳥取県生産者連絡協議会」は鳥取県下の和牛生産者、関係機関が一丸となって生産性、評価の向上に取り組み優良な産地形成を図ることを目的に、和牛生産者により設立されました。運営のために協議会に参加している生産者は子牛の生産1頭につき4,000円を積み立てており、「積立金を払うことに抵抗を感じる農家もいた」と木嶋会長は語られましたが、鳥取県やJAグループの協力の下、ほぼ全員の繁殖農家約280名が協議会に参加しています。



協議会の取り組みの1つに子牛市での鼻腔粘膜ワクチンTSV-3の投与がありますが、その点について岡山県農業共済組合の西川所長より、岡山県内でのワクチンの状況についてTSV-3の説明と併せて「岡山県では地域ごとの診療獣医師を対象にTSV-3の講習会を何回も行っており、生産者に伝えているので有効性について良く理解してもらっていると思う。」と説明していただきました。



パネルディスカッションで質問をする
小林部会長（左）

もう一つの取り組みについては、鳥取市場では雌子牛について、子牛の期待育種価、母牛の推定育種価のほかにゲノム育種価を表示しているとのことで、当初繁殖農家の反対もあったそうですが、購買者を意識した子牛づくりを意識するために一役買っているそうです。

行政関係者・流通関係者からは、「岡山県も見習う部分は多い」「理想的な取り組みだが、各地域のこだわりを考えると難しい点もある」と発言された他、会場の生産者からは「鳥取県全体が一つとなった協議会の取り組みは、大変有意義だ。」との意見が出されました。

最後に、小林部会長は「繁殖農家の高齢化、コロナの発生、飼料費高騰等、様々な問題はあるけれども、無理をせずに、和牛の火を消さないよう仲間づくりを行っていきたい。」と述べられました。

4. シンポジウムを終えて

冒頭にも記載しましたように、本シンポジウムの対面開催は4年ぶりとなりました。この間、世の中は生活様式の変更を強いられ、リモートでの会議が増え、ある意味気軽にインターネットで人と話すことができるようになりました。便利になった反面、失ったものもたくさんあると思います。その一つに、対面での話し合いが少なくなったことで昨今の人と人とのつながりの希薄さにさらに拍車を

かけることになったことです。

やはり、人間は一人だけでは無力で限界があります。そういった意味で、鳥取県の生産者連絡協議会は生産者自身が立ち上げ、皆で運営し、行政機関や農協が後押しするという理想的な形となっています。人と人がつながり、皆で形作っていくというお手本に感じました。本県も未曾有の畜産危機の中、見習う部分がたくさんあると思います。5年先、10年先に子供たちが国産、県産の畜産物をいつも口にできるように、今回のシンポジウムで得た知見を参考に、実現していかなければと考えています。



〔県民局だより〕

小学校で酪農の出前授業を行いました！

備中県民局畜産第一班

はじめに

現在、新型コロナウイルスの影響による牛乳・乳製品の消費の低迷や、飼料代をはじめとした資材の高騰により酪農情勢は厳しい状況にあります。こうした中で、今回はおかやま酪農業協同組合青年部の主催で行われた出前授業に参加させていただきましたので、この取組を紹介します。この出前授業は1月27日に、倉敷市立第二福田小学校の3年生に向けて行われました。

1 事前の準備はしっかりと！

①出前授業の開催に向けた勉強会

まず、出前授業の実施にあたり青年部役員の参加のもと、12月19日におかやま酪農業協同組合本所で消費者に向けた酪農の伝え方の勉強会が開催されました。畜産研究所の高崎専門研究員から、消費者へ正確にわかりやすく「酪農」を伝えるためのノウハウの講義を受けました。勉強会では、出前授業の準備に必要な事を出席者で話し合いました。また、青年部の中で当日注意すべきことなどの意見を出し合い、情報を共有しました。

②乳業メーカーとの打合せ

1月13日、出前授業の当日にご協力いただく乳業メーカーの方も交えて、打合せを行いました。打合せでは、当日の準備物や小学校での確認事項などを話し合いました。乳業メーカーの方からは、出前授業の最後に児童が感想を言う時間を設けることで出前授業が面白かったことをみんなで共有するとともに主催者のモチベーションに

もつながる、といった助言を受けました。

③小学校との最終打合せ

1月18日、最終打合せでは授業の内容や当日の時間配分、各自の役割などの確認を行いました。先生方から、児童たちは出前授業を本当に楽しみにしているという話を聞き、当日に向けて気持ちが高ぶりました。

2 いよいよ出前授業当日

当日は、心配されていた前日からの雨も上がり、仔牛たちも無事到着し、模擬牛の設置など準備に取り掛かりました。また、主催者として青年部5名、おか酪6名、乳業メーカー3名、畜産協会、井笠家保、県民局から各1名が参加しました。授業は3年生のクラス毎に、約1時間の授業を4回行いました。授業の流れは次のとおりでした。

①座学

座学では最初に青年部の難波晃大委員長から出前授業について説明し、次に乳業メーカーによる牛乳ができるまでのビデオを放映し、解説しました。



お話をする難波晃大委員長

②搾乳体験

搾乳体験は模擬牛を用いて行いました。模擬牛は乳頭から水が出る仕組みになって

おり、児童は楽しそうに乳搾り体験を行っていました。もう一度やりたいと言う児童も多く、休み時間には他の学年の児童らも体験に来ました。



搾乳体験を行う児童たち

③仔牛とのふれあい

難波牧場の生後2ヶ月の双子のホルスタインを連れて来ました。青年部の方が保定した仔牛を児童がなでたりブラッシングをしたりしました。



仔牛とふれあう児童

④感想、質問、まとめ

児童からは質問が相次ぎ、難波委員長を始め、青年部の方々が回答しました。

○児童からの質問（抜粋）

- ・牛は1日にどれくらいの乳を出すのか
- ・ミルクはどうやってできるのか
- ・生まれた時の牛の赤ちゃんの体重はどのくらいか
- ・牛は何を食べているのか
- ・牛はどのくらい飼っているのか

- ・酪農の仕事で一番大変なことは何か
- ・牛の耳に付いている番号は何か

最後に、難波委員長から「給食で牛乳が出たら、今日の事を思い出して牛乳を飲んでほしい。」とお話があり、児童は元気よく返事をしていました。



質問をする児童たち

⑤写真撮影

授業の最後に児童と先生、仔牛と青年部のみなさんで一緒に写真撮影を行いました。



みんなで記念撮影

3 まとめ

大盛況に終わった今回の酪農出前授業は、児童らにとって記憶に残る貴重な体験になったと思います。3年にわたり続いたコロナによる行動制限が緩和される方向にあることから、今後もこのような活動が広がり、牛乳・乳製品の消費の拡大や酪農への理解が進むことを期待します。

牛のクロストリジウム感染症について

岡山家畜保健衛生所

1 はじめに

クロストリジウム属菌は、グラム陽性の偏性嫌気性桿菌で、芽胞を形成します。芽胞を形成した状態では、熱や乾燥、消毒液にも耐性を持ち、長期間生き延びるため、殺菌が難しくなります。また、この菌は土壌や河川等に広く分布しており、健康な動物・人の腸管内でも正常細菌叢の一部として存在しています。そのため、全ての農場の牛で発症するリスクがあり、県内でも散発的に発生しています（表1）。

牛のクロストリジウム感染症には、気腫疽、悪性水腫、牛ボツリヌス症、牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症（旧：壊死性腸炎）等があります。今回はそれぞれの疾病の特徴について解説します。

表1 県内での発生状況

発生年度	悪性水腫		牛ボツリヌス症		牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	
	戸数	死産頭数	戸数	死産頭数	戸数	死産頭数
R4	0	0	1	64	0	0
R3	0	0	0	0	2	2
R2	0	0	4	5	1	1
R1	0	0	2	1	0	0
H29	1	1	2	6	0	0

2 気腫疽

気腫疽は*Clostridium chauvoei*によって引き起こされる届出伝染病です。傷口から本菌が侵入することで感染します。創傷部とその周囲に広範囲の皮下浮腫がみられ、短時間で全身に広がります。浮腫の部分を押すとプチプチと捻髪音が認められます。また、症状が進むと、創傷部から悪臭のする液体がでてきたり、ふらつきが見られ、やがて呼吸不全に至り、死亡します。急速に症状が進む場合には、発症後数時間

～2日以内に死亡します。

3 悪性水腫

悪性水腫は*C.septicum*、*C.novyi*等によって引き起こされます。はじめは傷口部分に熱をもった腫脹がみられ、ガスの産生により腫大します。その後、腫大した部分の皮膚は壊死し、冷たくなります。症状が進むと、食欲が減退・消失し、歩行困難や呼吸不全へと進み、1～4日以内に死亡します。

4 牛ボツリヌス症

ボツリヌス症は*C.botulinum*（ボツリヌス菌）によって引き起こされます。本菌の産生する毒素の抗原性の違いにより、A～Gの7つの型に分類され、牛ではC、D型が重要です。主な症状として、食欲の低下、神経症状による流涎の増加、後肢麻痺、起立不能、呼吸困難を引き起こし、死亡します。

ただし、これまで県内で発生した事例では、写真1のように一見普通に座って反すうしているように見える牛が、実際は後肢麻痺で立つことができず、様々な方法で立たせようとしても立つことが難しい状態でした。急性に症状が進む場合は、この状態から半日もすると呼吸不全に至り、死亡します。



写真1 牛ボツリヌス症による起立不能牛

発症の機序は食中毒型と感染型に分類され、食中毒型は野生動物の死骸・糞が混入した飼料や水分の多い変敗サイレージ等の中でボツリヌス菌が増殖し、産生した毒素を摂取することで発症します。感染型は、ボツリヌス菌を保有したカラス等の糞が農場内に侵入することが原因と考えられており、牛の消化管内でボツリヌス菌が増殖し、産生された毒素を吸収することで発症します。

5 牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症（旧：牛壊死性腸炎）

クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症は、*C.perfringens*によって引き起こされます。本菌の毒素の産生パターンからA～E型菌の5つの型に分類され、牛では全ての型で発生報告があります。原因は明らかにされていませんが、寒冷ストレスや飼料の過給、急な飼料の変更によって発生すると考えられています。幼牛で散発的に発生が多いと言われていますが、成牛にも発生します。

発症の初期には元気消失がみられ、血便や出血性の下痢、呼吸不全へと進み、死亡すると言われていますが、症状がみられずに突然死することが多いです。

6 発生した時の対策

まずは早期診断が重要のため、死亡牛や異常牛の検査をします。しかし、牛ボツリヌス症の場合には、発症していても糞便から毒素や菌が検出されない場合があるため、同居牛や農場の環境材料等を検査する必要があります。診断が確定するまでに1週間程度かかるため、診断を待たずに対策をする必要があります。牛のクロストリジウム感染症は、発症してからは効果的な治療はないため、発症牛は直ちに隔離し、確定診断後は早めに処分する必要があります。

クロストリジウム属菌に有効な消毒薬は限られています。塩素系、ヨード系、アルデヒド系が有効と言われていますが、芽胞

を形成している状態では消毒薬がほとんど効きません。そのため、まずは徹底的な清掃を行いましょう。

飼料が原因と疑われる場合には、直ちに飼料を変更しましょう。ただし、飼料の検査をするために、全てを処分せずに残しておいてください。

7 発生を予防するために

牛のクロストリジウム感染症には、ワクチンが販売されています（表2）。発症予防として、ワクチンを接種しましょう。ただし、ワクチンは体内の毒素を中和し、発症を防ぐことはできますが、菌の増殖や毒素の産生を防ぐことはできません。ワクチン未接種牛の発症や他の農場へ拡散するのを防止するためにも、日ごろから農場の清掃・消毒、野生動物対策、良質な飼料の給与を徹底し、感染リスクを減らす必要があります。

まずは、野生動物の侵入防止対策として、防鳥ネットや殺鼠剤等の設置をしましょう。

また、サイレージは、土や野生動物の死骸等の異物の混入防止、適切な水分調整、乳酸菌の添加等を行った良質なものを給与しましょう。変敗した飼料の給与は、発生リスクにつながるのも、もったいなくても給与は止めましょう。

表2 牛クロストリジウム感染症に対応するワクチン一覧

ワクチン名	菌種
牛嫌気性5種混合	気腫菌
	クロストリジウム・セプチカム
	クロストリジウム・ノビイ
	クロストリジウム・パーフリンゲンス
牛クロストリジウム・ボツリヌス感染症	クロストリジウム・ソルデリー
	クロストリジウム・ボツリヌス



畜産研究所の主な試験研究課題について

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 企画開発グループ

今年度、畜産研究所では「ブランド力の強化」の分野で9課題、「環境との調和と気候変動への対応」の分野で4課題、「生産性の向上」の分野で5課題の計18課題を実施します。今回、この中から重点研究として取り組む4課題の概要を紹介します。

1 「もっとおいしい」岡山和牛づくり

和牛肉の最大の特徴といえば霜降り（脂肪交雑）です。霜降りの量を示す枝肉の格付基準としてはBMSが用いられていますが、これまで当研究所ではBMSだけでなく、脂肪の質（脂肪酸）や脂肪交雑の形（細かさ）といった霜降りの質についての研究を進め、格付評価には表れないおいしさを求めてきました。一方、近年の研究で牛肉の旨味やコク、柔らかさに関係する遺伝子が見つかっており、この遺伝子型を調べることで赤身のおいしさを予測できるようになっています。

そこで、これらの遺伝子型の調査を進め、これまで求めてきた霜降りの質の向上と合わせて、赤身部分のおいしさも追求した「もっとおいしい」岡山和牛づくりに取り組んでいきます。



写真1.枝肉調査

2 イネWCSを使った乳用牛育成

イネWCSは輸入飼料より安価であるため、需要が高まっている国産飼料の1つです。乳牛では泌乳牛、乾乳牛への給与が中心で、育成牛にはあまり給与されていません。その理由として過肥になるのでは？繁殖成績が悪くなるのでは？という懸念があるようです。

そこで当研究所では、8～15ヶ月齢の育成牛にイネWCSを給与し、育成牛の発育や繁殖に悪影響を与えない給与方法を研究しています。また、協力していただける農家を募って地域での取り組みを広げたいと思いますので、興味のある方は畜産研究所までご相談ください。



写真2.イネWCS

3 牛伝染性リンパ腫（EBL）発生予防のための調査研究

牛伝染性リンパ腫（EBL）は、ウイルスを原因とする病気で、有効なワクチンや治療法がないため、感染がわかったとしても感染牛の淘汰か隔離しか対処法がなく、農場にとっては大きな打撃となります。

最近の研究で、特定の遺伝子（抵抗性遺伝子）を持った牛では、ウイルスに感染しても発症しにくくなることが分かっ

てきました。

そこで、当研究所飼養牛、県内飼養牛を対象として、EBL発症抵抗性遺伝子の保有状況を調査するとともに、畜産研究所内で確認された保有牛を用い、EBL発症抵抗性遺伝子を保有した子牛の作出を行っています。

4 畜産からの温室効果ガス排出削減

最後に紹介するのは、地球温暖化の原因となっている温室効果ガス（GHG）をテーマにした研究です。畜産業から発生するGHGは牛のゲップに含まれるメタン、堆肥化時に発生する一酸化二窒素が知られており、農業生産分野では全体の約3割を占めていることから、削減に向けた技術開発が求められています。これらの排出を削減する研究は全国的に広がっており、当研究所でも取り組んでいます。

牛のゲップに含まれるメタンの量を1頭ずつ比べることで遺伝的にメタン発生が少ない牛づくりを進めています。また、エサの内容でメタン発生が減らせないかも調べていきます。

堆肥化では一酸化二窒素を減らす微生物の添加により、発生を抑える方法を研究しています。



写真3.GHG分析装置

お知らせ

畜産研究所内の「まきばの館」は、4月29日(土)に体験型施設としてリニューアル

オープンします。

新設した専用の体験ルームでは、アイスクリーム作り体験やソーセージ作り体験など、牛乳やお肉を使った加工体験イベントを楽しむことができます。また、新しくなったレストランでは、クッキング体験ができるようになるなど、多くの体験メニューを用意してみなさまをお待ちしています。ぜひご来園ください。



〔共済だより〕

家畜診療日誌

美作家畜診療所 宮本 翔也

はじめまして、美作家畜診療所（旧北部基幹家畜診療所）に勤務しております、宮本翔也と申します。この場をおかりして自己紹介をさせていただきます。出身は大阪府で、獣医学科のある岐阜大学に進学しました。大学ではウイルス学に興味を持ち、4年生からは狂犬病ウイルスに関する研究に励んでいました。将来は研究者になろうと思っていましたが、様々な挫折を味わい、やけくそになった結果、道を誤り産業動物診療の世界へやってきてしまいました。しかし、大学ではあまり牛に触れる機会がなかったため、就職してしばらくはなにもできないただの役立たずでした。手術の助手で先輩獣医師に怒られ、半泣きになりながら皮膚縫合したこともありました（そのときは農家さんが慰めてくれました、ありがとうございます）。そんな私も獣医師になって3年が過ぎ、ようやくオドオドせずに診療ができるようになってきました。怒られ辛かったはずの思い出も3年が過ぎれば、なぜかいい思い出に変わっています。バカって素晴らしいなと思います。今回はそんなバカな私が最近取り組んでいる虚弱な子牛への対策について紹介させていただきます。

毎日のように子牛を診療していると、残念ながら治療が実らない場合もいくらか存在します。特に虚弱子牛の下痢や肺炎は治療段階で手遅れであることがあります。では、どうして子牛が虚弱になってしまうのでしょうか。その原因はさまざまですが、1つには、母牛の健康状態、特に妊娠末期の栄養状態が関与していることがあります。なぜなら、胎子は妊娠末期2-3か月で急成長し、さらに、この時期に免疫系細胞も急激に増殖するか

らです。つまり、母牛の妊娠末期の低栄養は子牛の免疫機能に大きな悪影響をもたらすと考えられます。なお、妊娠末期の胎子はエネルギー源としてアミノ酸の要求量が高く、この時期の栄養の充足、特にタンパク質の充足は重要であると言えます。

また、母牛の栄養だけでなく、分娩の環境、特に牛床の汚染も子牛を病気にさせない上で非常に重要です。もう、皆さんどこかで聞いたことがあると思いますが、初乳を飲む前の子牛は病原体に対抗する力は極めて小さいです。そして、初乳を飲む前に病原体が侵入すると、初乳中の大切な成分（IgG）の吸収率が低下することが知られています。つまり、分娩直後に子牛の口や鼻が糞便で汚染され、体内に菌が入ると、初乳の効果を期待できません。分娩時の一瞬の汚染がその後の子牛の一生を台無しにするといっても過言ではありません。逆に言うと、分娩時に綺麗な環境で生まれた子牛は汚染された環境で生まれた子牛よりもその後の治療回数も少なくなることが期待できます。分娩牛床を清潔に保てるような理想的な敷材はやはり藁ではないでしょうか。藁は水分量が少なく乾燥しているため細菌が増えづらく、オガなどに比べて鼻・口に入るリスクが小さいです。もちろん藁でなくても、新生子牛が糞便に汚染されないような工夫がされているなら、素晴らしいことだと思います。

今日書いた内容はもしかするとすでに知っているようなことだったかもしれませんが、それでもこのような基本的なことが子牛を下痢させないうえで最も重要だと考えているので、もう一度確認していただけたなら幸いです。

岡山県畜産関係者名簿（令和5年4月1日現在）

部 署	職 名	氏 名	部 署	職 名	氏 名
農林水産部畜産課 FAX 086-224-2155 生産振興班 TEL 086-226-7429 					

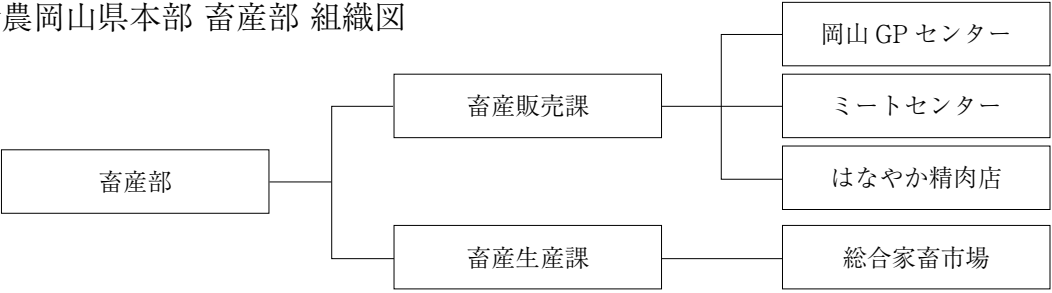
部 署	職 名	氏 名	部 署	職 名	氏 名
津山家畜保健衛生所 TEL 0868-29-0040 FAX 0868-29-3140 家畜衛生第一課 					

岡山県農業共済組合

令和5年4月1日

家 畜 部	部 長	江 草 佳 彦
家 畜 課 TEL 086-277-5539 FAX 086-276-1412	課 長	江 草 佳 彦
	主 事	石 川 貴 章
	主 事	小 橋 陸 哉
	主 事	鴨 井 敏 則
	臨 時	川 岡 典 子
生 産 獣 医 療 支 援 セ ン タ ー TEL 0867-22-1500 FAX 0867-22-1194	診 療 所 長	西 川 達 也
	主 幹	大 屋 卓 志
	技 師	宇 野 進
	技 師	金 子 愛 弥
	技 師	船 越 史 佳
	技 師	森 本 高 輝
	嘱 託	山 形 真 由
備 中 家 畜 診 療 所 TEL 0865-64-4141 FAX 0865-64-2926	診 療 所 長	水 戸 康 明
	技 師	広 瀬 水 彩 子
	技 師	田 中 陽 生
	技 師	赤 松 優 美
	技 師	前 原 健 成
	臨 時	瀬 良 田 祐 子
	臨 時	齋 藤 聡 子
備 中 家 畜 診 療 所 備 北 出 張 所 TEL 0866-22-2211 FAX 0866-22-0358	出張所長(兼)	水 戸 康 明
	主 幹	根 木 慶 彦
	技 師	越 本 時 貴
	技 師	新 里 実 子
	技 師	正 木 丈 博
	技 師	畦 崎 正 典
	臨 時	中 笹 良 恵
美 作 家 畜 診 療 所 TEL 0868-26-1112 FAX 0868-26-6632	診 療 所 長	椿 修
	主 任	神 田 遥 子
	技 師	篠 原 健 志
	技 師	守 屋 ひ か 理
	技 師	宮 本 翔 也
	技 師	柴 田 薫
	技 師	伊 藤 友
	技 師	堀 間 大 我
	技 師	豊 島 麻 美 子
	技 師	影 山 毅
	技 師	西 山 篤
	技 師	大 谷 香 里
	臨 時	小 林 直 子
	臨 時	福 田 佳 子
美 作 家 畜 診 療 所 蒜 山 出 張 所 TEL 0867-66-2517 FAX 0867-66-4626	出張所長(兼)	椿 修
	主 幹	谷 拓 海
	技 師	八 木 梓
	技 師	後 藤 友 樹
	技 師	齋 喜 宣 孝
	技 師	金 盛 隆 志
	技 師	犬 間 一 郎
	臨 時	宮 本 美 佐 枝

全農岡山県本部 畜産部 組織図

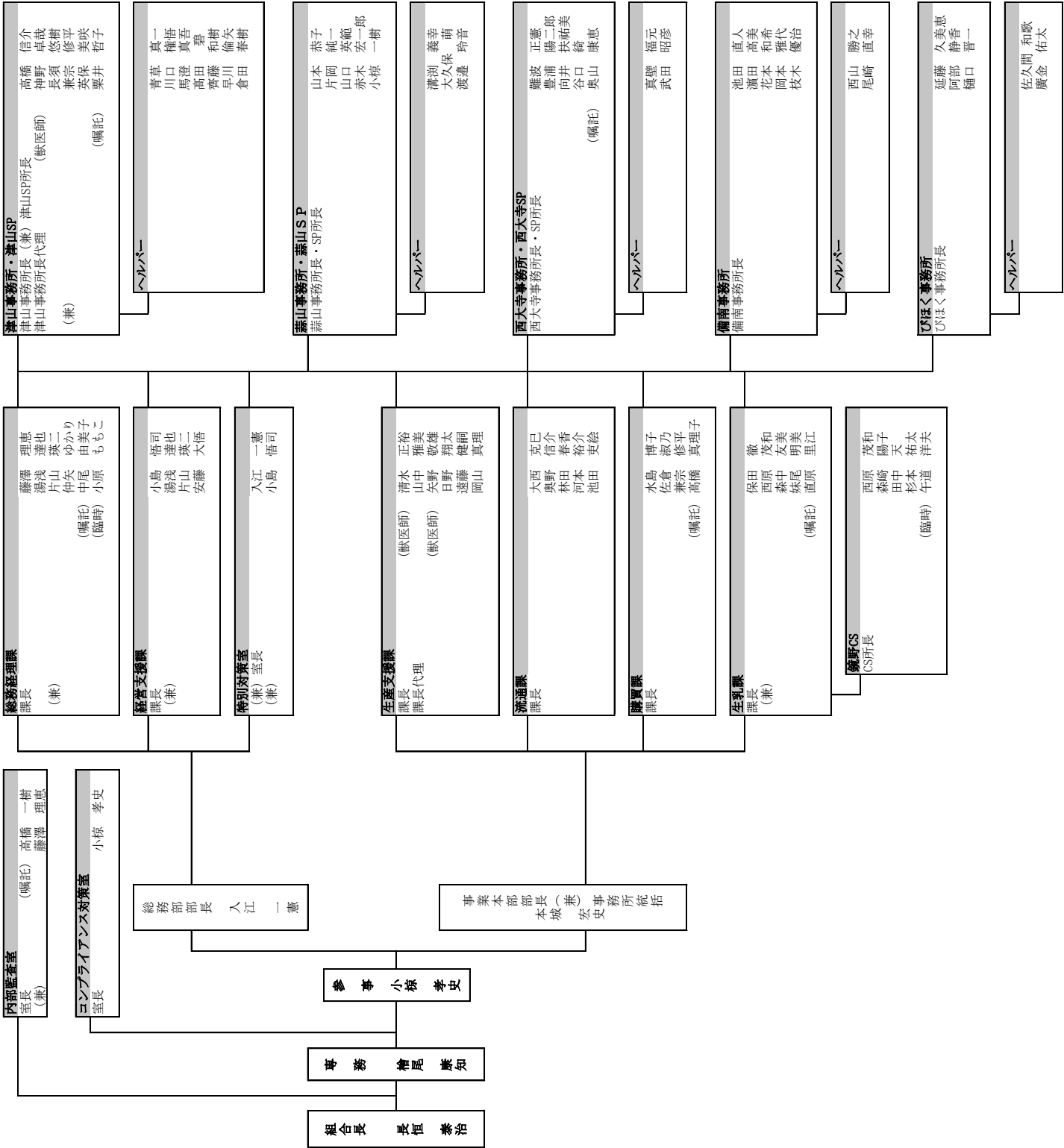


全農岡山県本部 畜産部 人事配置

令和5年4月1日現在

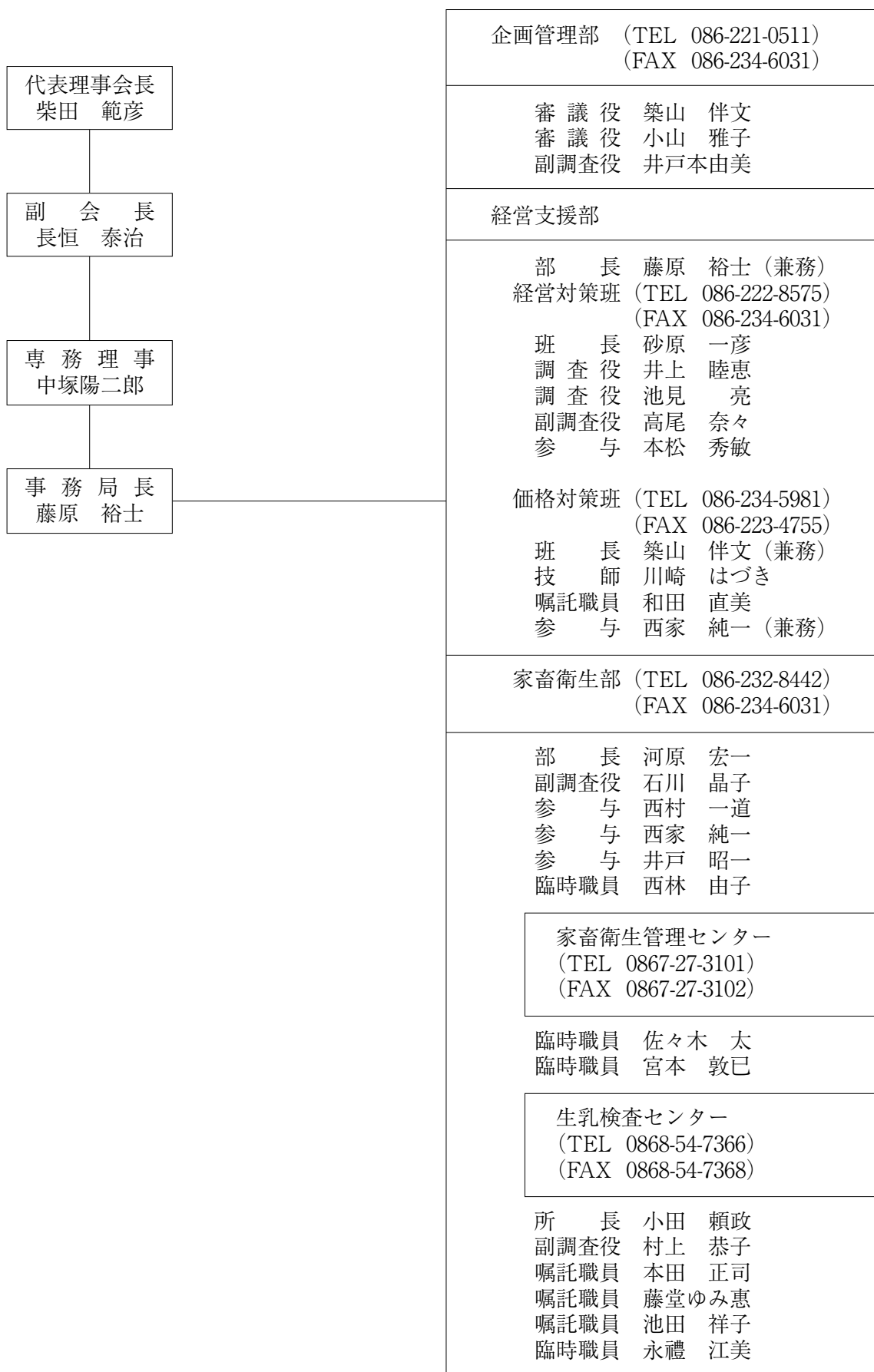
部・課	職 名	氏 名	備 考
畜産部	部 長	山 本 高 宏	
	次 長	藤 原 哲	
畜産販売課 (086-296-5033) (086-280-5024)	課 長	暮地岩 有 斗	
	専任課長	堀 田 文 博	
		藤 原 潤 太	
		阿 食 赳 正	
		松 尾 舞	
		岡 田 知 里	
		成 松 真奈美	
		柿 本 真 奈	
		松 本 英 梨	
		岡 崎 友 哉	
		太 田 裕 之	
		難 波 智 明	
		原 千 秋	
岡山 GP センター (086-293-8688)	センター長	暮地岩 有 斗	兼 務
ミートセンター (086-296-5088)	センター長	藤 原 哲	兼 務
		木 下 貴 博	
		中 村 倫 政	兼 務
		川 上 圭 太	
はなやか精肉店 (086-222-2560)		井 上 清 志	
	店 長	堀 田 文 博	兼 務
		中 村 倫 政	
畜産生産課 (086-280-5608)		岸 田 健 介	
	課 長	西 野 芳 仁	
		小 野 皆 人	
		妹 尾 侑 斗	
		中 本 航 輝	
		小 椋 一 広	
		植 田 淑 江	
総合家畜市場 (0867-42-5333)		難 波 智 明	兼 務
		道 繁 要	
	場 長	中 村 健	
		小 野 皆 人	兼 務
		小 椋 一 広	兼 務
		植 田 淑 江	兼 務

おかやま酪農業協同組合機構図：令和5年4月1日付



令和5年度 一般社団法人岡山県畜産協会組織図

(令和5年4月1日)



岡山県畜産関係各種協議会名簿一覧

(令和5年4月1日現在)

名 称	会 長	事 務 局
岡山県家畜人工授精師協会	狩 谷 和 宏	岡山県畜産課
岡山県酪農乳業協会	長 恒 泰 治	おかやま酪農業協同組合
岡山県産牛肉銘柄推進協議会	藤 原 雅 人	全農岡山県本部畜産部
岡山県産豚肉消費促進協議会	藤 原 雅 人	全農岡山県本部畜産部
岡山県養鶏協会	安 原 健 二	烏城養鶏農業協同組合
岡山県ふ卵協会	山 上 祐 一 郎	烏城養鶏農業協同組合
岡山県装削蹄師会	平 井 計 行	岡山県装削蹄師会事務局
岡山県養蜂組合連合会	鈴 木 康 正	鈴木養蜂場
岡山県和牛子牛資質向上対策協議会	山 本 高 宏	岡山県畜産協会
岡山県馬事畜産振興協議会	柴 田 範 彦	岡山県畜産協会
岡山県養豚振興協会	菱 川 大 二 郎	岡山県畜産協会
岡山県コントラクター協議会	石 原 聖 康	岡山県畜産協会



高知競馬開催案内(2023)

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

5 月				6 月			
開催日	備 考			開催日	備 考		
1 月				1 木			
2 火				2 金			
3 水				3 土			
4 木				4 日			
5 金				5 月			
6 土	○ ナイター			6 火			
7 日	○ ナイター			7 水			
8 月				8 木			
9 火				9 金			
10 水				10 土	○ ナイター		
11 木				11 日	○ ナイター		
12 金				12 月			
13 土	○ ナイター			13 火			
14 日	○ ナイター			14 水			
15 月				15 木			
16 火				16 金			
			ナイター(14:45~20:50)				ナイター(14:45~20:50)

ホ ッ ト ニ ュ ー ス

令和5年3月15日(水)高知競馬場において、競馬や畜産及び畜産物に対する認識を深めるため、岡山県馬事畜産振興協議会協賛レース「岡山県吉備の温羅特別」を開催しました。また、入場者の皆様に、蒜山ジャージーヨーグルトを配布し、岡山の乳製品のPRを行いました。

コロナ下で来場を控えていた競馬ファンの皆様、疾走する馬たちの雄姿は、競馬場で。



あとがき

居酒屋で、大豆由来の植物性代替肉、細胞培養した培養トロ、食用コオロギをつまみに一杯飲むのも味気ない。そんな時代になってから悔やんでみてもあとの祭りだ。人口増加、温暖化による気候変動、独裁者の力による現状変更などにより、世界的な経済不況、食料危機に近い将来必ずやってくる。

今こそ、農業や製造業など、地場産業の振興に本気で取り組むべきであろう。

変化を好まぬ国民性もあるが、次世代に付けを回さないよう、偽善的な建前論より現実を直視した決断と実行あるのみだ。(Y.N)

岡山畜産便り 4月号(春季号)

第74巻 第3号(通巻704号)

令和5年4月27日発行

定価250円(消費税・送料含)

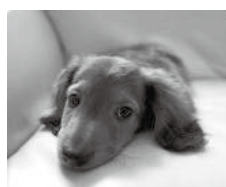
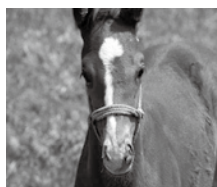
発行人 柴田範彦 編集人 藤原裕士

発行所 一般社団法人 岡山県畜産協会

〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館5階

TEL 086-222-8575 FAX 086-234-6031

印刷所 ノーイン株式会社



動物の健康は 人の健康につながる

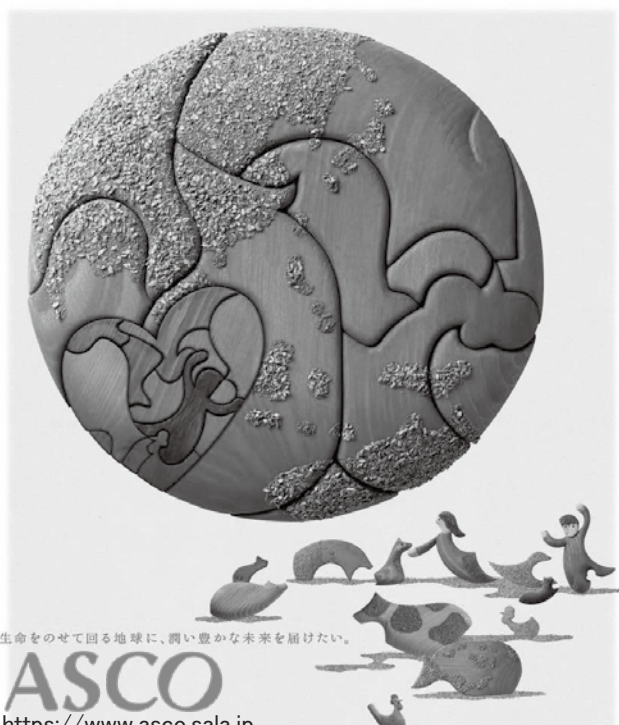
- 動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。
- 安全な畜水産物の生産をサポートし、獣医療の発展と食の安全・安心に貢献します。

MPアグロ株式会社

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13
TEL 011(376)3860 FAX 011(376)2600

岡山支店 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4880 FAX 086-724-4889
AHSC西日本 〒702-8032 岡山市南区福富中2丁目6-18 TEL 086-902-2200 FAX 086-264-2500
御津物流センター 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4816 FAX 086-724-4882
東京本部・札幌・旭川・函館・帯広・北見・釧路・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・東京・北関東
大阪第一・大阪第二・兵庫・広島・山口・鳥取・島根・高松・徳島・松山・宇和島
福岡オフィス・福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋
札幌物流センター・帯広物流センター・盛岡物流センター・関東物流センター

人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します



本社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821 FAX 0532-33-3611

東京本社

〒103-0027
東京都中央区日本橋1丁目16番地3号
日本橋木村ビル7階
TEL 03-6225-5790 FAX 03-6225-5791

営業所

- ・北海道支店
札幌
- ・東日本支店
前橋、松本、旭、茨城、栃木、東京
大宮、宮城、福島
- ・中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
- ・西日本支店
広島、山口、米子、岡山、大阪、京都